

最後に宮崎県の出土例<sup>5)</sup>について触れておく。西都市別府原遺跡では、縄文時代早期中葉の条痕文土器などに伴い磨製石鏃が1点出土している。形態は長身細型にちかく、しかし基部は両端が広くならないものである。共伴している打製石鏃は多様な形態のものが未製品を含めて約700点出土している。

また新富町瀬戸口遺跡では、細長い柳葉形を呈したものが2点出土しており<sup>6)</sup>、このうち1点は鋸歯縁である。共伴する土器は隆起線文土器・前平式土器・押型文土器などであり、打製石鏃は多く出土している。

このように、南九州のなかでも鹿児島県と宮崎県との差異が認められ、各遺構や遺物についても単純に南九州だからという理由ではなく、それぞれの存在する背景を探求していく必要がある。

#### 【 註 】

- 1 磨製石鏃と局部磨製石鏃の関係については、前回の論文(宮田1994)で述べているので参照されたい。
- 2 加栗山式土器は新東見一のいう知覧式土器であり、加栗山タイプと呼ばれることもある。また、前平式土器と加栗山式土器との間に「志風頭式土器」が提唱されている(上杉2000)が、ここでは前平式土器に含めている。
- 3 縄文時代後期～晩期の磨製石鏃あるいは局部磨製石鏃は通常の打製石鏃と比較して極めて出土率が少ない。この時期には石材の供給が広域的であり、県本土において流通がシステム化しているような状況である。そのため、磨製石鏃が存在する理由や背景は当然のことながら縄文時代早期とは異なると考えられる。
- 4 磨製石鏃の穿孔について、国分直一は台湾の民俗例との比較から紐でつなぐためのものであると述べている(国分1981)。筆者も同様の見解である。
- 5 宮崎県における磨製石鏃の出土例については、藤木聡氏・松本茂氏にご教示をいただいた。
- 6 柳葉形の磨製石鏃は、現在まで鹿児島県では類例がない。柳葉型(瀬戸口タイプ)と区別して今後の類例の増加を待ちたい。

#### 【参考文献】

上杉彰紀 2000 「調整技法からみた縄文早期貝殻文円筒器」『南九州縄文通信』No.14  
 大久保浩二 1996 「まとめ—磨製石鏃について—」『牛之原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター  
 小田静夫 1994 「黒潮圏の丸ノミ形石斧—柁ノ原遺跡の丸ノミ状石斧をめぐる—」『南九州縄文通信』No.8  
 小田静夫 1998 『黒潮圏の磨製石斧』考古学資料集3日本人および日本文化の起源に関する学術的研究  
 金子浩昌・忍沢成規 1986 『骨角器の研究縄文篇Ⅰ・Ⅱ』考古民俗叢書22 慶友社  
 黒川忠広 2002 「南九州貝殻文系土器」南九州縄文研究会  
 桑波田武志 2001 「まとめ—石器について—」『ホケノ頭遺跡』田代町教育委員会  
 国分直一 1981 『台湾考古民族誌』考古民俗叢書18 慶友社  
 新東見一 1998 「南九州の円筒土器と角筒土器」『鎌木先生古稀記念論集 考古学と自然科学』鎌木先生古稀記念論文集刊行会

馬籠亮道 2002 「桑ノ木津留産黒潮石と縄文時代早期の小形石鏃について」『石器原産地研究会 第2回研究集会資料』  
 宮田栄二 1994 「縄文早期の磨製石鏃」『南九州縄文通信』No.8  
 1996 「南九州における細石刃文化終末期の様相」『坂詰秀一先生還暦記念論文集 考古学の諸相』  
 1998 「縄文時代草創期の石器群—隆起線文土器段階の域性とその評価—」『南九州縄文通信』No.12  
 1999 「南九州縄文草創期の生業構造—石器組成及び遺構からの視点—」『鹿児島考古』第33号  
 盛本 勲 1998 「琉球列島出土の貝鏃様製品小考」『列島の考古学』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会  
 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2000 「三角山Ⅰ遺跡—不思議な穴のあるやじり—」『埋文だより』第22号  
 田代町教育委員会 1995 『荒原遺跡』田代町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)  
 2001 『ホケノ頭遺跡』田代町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)  
 西之表市教育委員会 1995 『奥ノ仁田遺跡・奥嵐遺跡』西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(7)  
 吹上町教育委員会 1990 『塚ノ越遺跡ほか2遺跡』吹上町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)  
 金峰町教育委員会 1992 『宇治野原遺跡』金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)  
 南種子町教育委員会 1996 『石ノ峯遺跡』南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)  
 加世田市教育委員会 1999 『志風頭遺跡・奥名野遺跡』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書(16)  
 川辺町教育委員会 1998 『鷹爪野遺跡』川辺町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)  
 鹿児島県立埋蔵文化財センター 1993 『榎崎B遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書(4)  
 1996 『牛之原遺跡』発掘調査報告書(18)  
 1996 『小牧3A遺跡・岩本遺跡』発掘調査報告書(15)  
 鹿児島県教育委員会 1992 『西丸尾遺跡』  
 始良町教育委員会 2002 『建昌城跡』  
 宮崎県埋蔵文化財センター 2002 『別府原遺跡 西ヶ迫遺跡別府原第2遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第61集  
 新富町教育委員会 1986 『新田原遺跡・瀬戸口遺跡・蔵園地下式横穴墓』新富町文化財調査報告書 第4集